

米ドルMMF

(データは2004年9月30日現在)

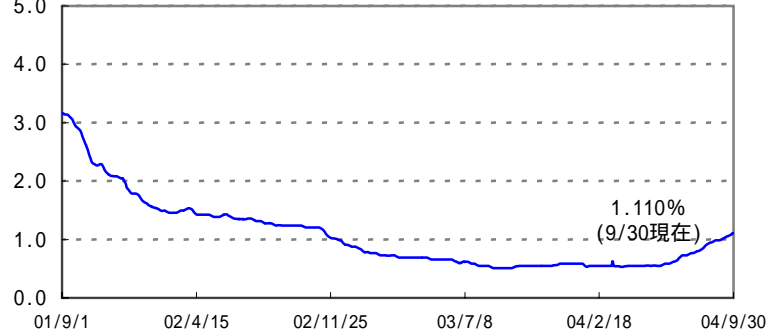
ムディーズ・イブ・ス・サービス・イクより平成12年2月3日にAaaの信用格付とMR1+の市場リスク格付を取得しております。

[純資産総額] 15.11億米ドル(約1,678億円)	[7日間平均利回り(税込み)] 1.110%
[決算日] 毎年12月31日	[加重平均残存期間] 60日
[設定日] 1992年1月17日	[分配方法] 毎日実績分配
[純資産価格] 100米ドル	[当月再投資額(税込み)] 0.0858米ドル
	1万口当たりの純資産価格、再投資額になります。

<運用担当者のコメント>

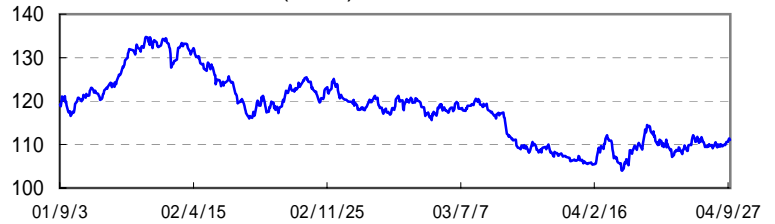
- ☑ 9月のマイルドカーブは、金利水準が全般に上昇したことを背景に、勾配化の動きとなりました。1ヵ月物レートは0.17%上昇し1.84%となった反面、12ヵ月レートは0.18%上昇し2.48%となり、長短金利差は、8月末の0.63%から0.64%に、わずかに拡大しました。
- ☑ 中央銀行、米連邦準備制度理事会(FRB)が、段階的な金融引き締めを継続するなか、短期金利は、ジリ高の動きを見せました。21日の連邦公開市場委員会(FOMC)では、予想されていた通り、0.25%の政策金利引き上げが実行されたことから、こうした着実な金利引き上げが、今後も続くであろうとの見方が定着しました。
- ☑ 一方、長期金利は、進行中の金融引き締めサイクルが、最終的にどれだけの引き締め幅になるのかが、市場の継続的な関心事であることから、引き続き、景気指標の内容に、より大きく影響されました。月の初旬には、雇用統計の修正値が、当初よりも強いものになったことから、長期金利は上昇に向かいましたが、月半ばにかけては、インフレ指標が、予想より幾分低めの結果になったこと、また小売販売統計が、予想を裏切る内容であったことなどから、反落に転じました。また、こうした統計結果から、ピーク時点での政策金利水準は、これまでの予想より、幾分低いものになるのではないかと観測に至りました。
- ☑ このように一旦は反落した長期金利でしたが、月の後半には、前回8月のFOMC議事録が公表され、この中では、6-7月に見られた、一時的な景気減速が、このまま進行する公算は、現状の緩和的な金融政策と、拡張的な財政政策という環境下では低く、景気の基調は、2005年は、よりしっかりとしたものになるとの見通しが示されていたこともあり、再度上昇に向かいました。
- ☑ 当ファンドの利回りを極力高いものとするため、米ドルのイールドカーブが、順イールドに留まる限り、加重平均残存期間は、引き続き、最大限の60日付近を維持してゆくつもりです。

<7日間平均利回り(税込み)推移>



*上記はあくまでも過去の実績であり、将来を保証するものではありません。

<為替推移 円/米ドル(参考)>



東京三菱銀行発表の対顧客電信売買相場の仲値(TTM)です。

<格付分布>

格付	比率 (%)
現預金	5.7%
P-1	58.6%
P-2	0.0%
Aaa	23.1%
Aa	12.6%
A	0.0%
合計	100.0%

<残存年限別構成比>

残存年限	比率 (%)
現預金	5.7%
30日以内	37.4%
90日以内	38.5%
180日以内	10.4%
1年以内	8.0%
1年超	0.0%
合計	100.0%

変動利付債は利払変更日までの日数で計算しています。

<組入れ上位10銘柄>

銘柄	業種	クーポン (%)	償還日	格付	比率 (%)
1 AIG SUNAMERICA FINANCIAL	金融	変動	04/10/15	Aaa	3.7
2 SYNDICATED LOAN FUNDING TRUST	金融	変動	04/10/22	Aa	3.3
3 TRAVELERS INSURANCE CO INSTITUTIONAL FUNDING	金融	変動	04/12/29	Aa	3.3
4 INDOMITABLE FUNDING LTD	金融	ゼロ	04/11/8	P-1	3.3
5 BETA FINANCE INC	金融	変動	04/10/15	Aaa	2.3
6 BANK OF SCOTLAND INTERNATIONAL (AUSTRALIA)	銀行	ゼロ	04/10/13	P-1	2.0
7 SCALDIS CAPITAL LTD	金融	ゼロ	04/12/20	P-1	1.7
8 CREDIT SUISSE FB USA INC	銀行	変動	04/11/15	Aa	1.7
9 SYNDICATED LOAN FUNDING TRUST	金融	変動	04/10/12	Aa	1.7
10 SYNDICATED LOAN FUNDING TRUST	金融	変動	04/11/16	Aa	1.7

「ゼロ」は割引債で、「変動」は変動利付債です。変動利付債券は、「償還日」を次回利払日としています。

「格付分布」及び「上位10位銘柄」の格付の記号は、ムーディーズ社の表記方法で記載しています。

従って、S & P社のA-1及びA-1+は、P-1、AAAはAaa、AAはAaにそれぞれ含まれています。

<資産構成比>

資産	比率 (%)
CD	0.0%
CP	60.8%
変動利付債	25.4%
普通債	8.1%
現預金	5.7%
合計	100.0%

当資料は、日興グローバルアセットマネジメント(U.K.)リミテッドが当ファンドの運用状況についてお伝えすること等を目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した資料であり、証券取引法、投資信託及び投資法人に関する法律に基づく開示資料ではありません。当資料の情報は信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、情報の正確性・完全性について日興グローバルアセットマネジメント(U.K.)リミテッドが保証するものではありません。当資料に掲載されている数値、図表等は、特に断りのない限り当資料作成日現在のものです。また、当資料に示す意見は、特に断りのない限り当資料作成日現在の弊社の見解を示すものです。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境等の変動を保証するものではありません。当資料中の運用実績等に関するグラフ、数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。当ファンドは、主に外資建の公社債を投資対象としています。組入債券は、金利の変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で価値が変動するため、ファンドの純資産価値も変動します。また、当ファンドの受益証券は、純資産価値が外貨建てで算出されるため、円貨でお受取りの際には為替相場の影響も受けます。したがって元金を割り込むことがあります。投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。最終的な当ファンドのご購入に際しての判断は、お客様自身でお願いします。投資信託は、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

ユーロMMF

(データは2004年9月30日現在)

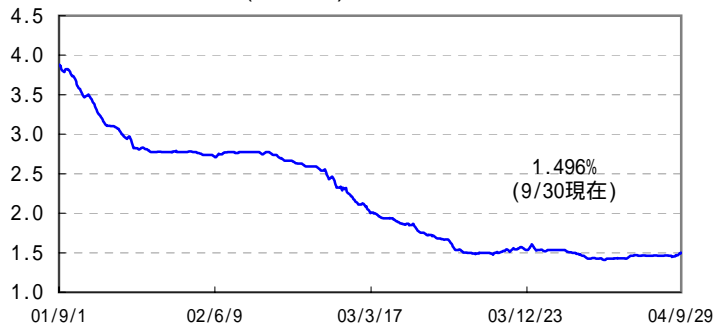
[純資産総額] 1.34億ユーロ(約184億円)
 [決算日] 毎年12月31日
 [設定日] 1996年2月29日
 [純資産価格] 100ユーロ

[7日間平均利回り(税込み)] 1.496%
 [加重平均残存期間] 72日
 [分配方法] 毎日実績分配
 [当月再投資額(税込み)] 0.1208 ユーロ
 1万口当たりの純資産価格、再投資額になります。

<運用担当者のコメント>

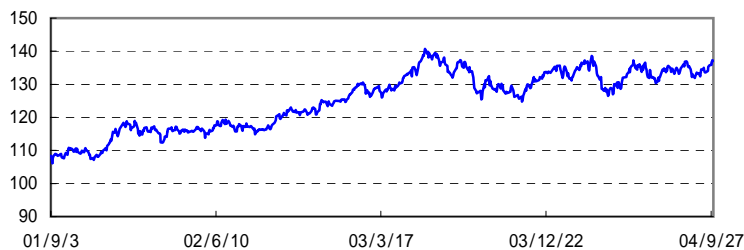
- ☑ 9月のユーロマネーマーケットのイールドカーブは、長短金利差の拡大から勾配の度を強めました。月末時点の3ヵ月レートは、8月末比0.03%強含み、2.14%となりましたが、12ヵ月レートは、より大きな0.1%の上昇となり、2.39%となりました。8月末時点で0.18%であった長短金利差は、0.07%拡大し、0.25%となっています。
- ☑ 世界的に、9月は、原油価格動向が金融市場の主要関心事となりました。ロシア最大の石油コングロマリット企業、ユーコス経営問題が続く一方、アメリカでは、全土を襲ったハリケーンの影響から、供給問題が生じたことから、原油価格は、1バレルあたり50ドルの大台に乗せました。こうした原油価格高騰は、実質的には、金融引き締めと同様の効果をもたらすことから、景気の成長見通しについては、世界的に悪影響が及ぼされるであろうとの見方が強まりました。
- ☑ こうした環境下、金利見通しについては、欧州中央銀行(ECB)の複数の理事により、タカ派的なコメントがなされました。財政赤字が許容されがちな傾向にあることや、賃金上昇が、先々へのリスクとして懸念されるなか、金利が上昇に向かうのではないかとという心配が拡大しつつあるからです。こうしたコメントから、世界的な景気拡大への見通しが弱まる反面で、欧州の金利は、長短ともにジリ高となりました。
- ☑ 9月に発表された、ユーロ圏の景気指標は、幾分改善の傾向を見せました。7月分小売販売統計は、月間で0.4%の拡大となり、前年同月比での成長は、1.1%となりましたが、これらの域内指標だけから判断する限り、ECBが金利の引き上げを検討するのは、なお時期尚早と思われます。しかし、ECBが政策目標としているインフレ水準が前年比で2%と絶対的に低い水準にあることを思えば、原油価格の高騰の影響は、十分に懸念されることとあり、これが先行きで域内のインフレ率に浸透しつつあることが示された場合には、本意ながら金利引き上げに追い込まれる可能性も否定できません。

<7日間平均利回り(税込み)推移>



*上記はあくまでも過去の実績であり、将来を保証するものではありません。

<為替推移 円/ユーロ(参考)>



東京三菱銀行発表の対顧客電信売買相場の仲値(TTM)です。

<格付分布>

現預金	3.5%
P-1	1.1%
P-2	0.0%
Aaa	39.6%
Aa	55.8%
A	0.0%
合計	100.0%

<残存年限別構成比>

現預金	3.5%
30日以内	28.4%
90日以内	47.3%
180日以内	13.3%
1年以内	7.5%
1年超	0.0%
合計	100.0%

*変動利付債は利払変更日までの日数で計算しています。

<組入れ上位10銘柄>

銘柄	業種	クーポン(%)	償還日	格付	比率(%)
1 General Electric Capital Australia	製造	変動	04/11/15	Aaa	6.0
2 Bank Austria	銀行	5.375	05/1/26	Aa	5.4
3 Rabobank	銀行	4.75	04/10/13	Aaa	4.5
4 AIG	金融	変動	04/10/18	Aaa	4.5
5 Banco Local Espania	銀行	変動	04/12/29	Aa	4.5
6 Rentenbank	銀行	5.25	05/6/21	Aaa	3.9
7 Nationwide Building Society	銀行	変動	04/12/27	Aa	3.8
8 AB Spintab	銀行	変動	04/10/6	Aa	3.8
9 HBOS Treasury Services	銀行	変動	04/12/6	Aa	3.8
10 Kredietbank	銀行	変動	04/12/27	Aa	3.7

「ゼロ」は割引債で、「変動」は変動利付債です。変動利付債券は、「償還日」を次回利払日としています。

「格付分布」及び「上位10銘柄」の格付の記号は、ムーディーズ社の表記方法で記載しています。従って、S & P社のA-1及びA-1+は、P-1、AAAはAaa、AAはAaにそれぞれ含まれています。

<資産構成比>

CD	0.0%
CP	1.1%
変動利付債	62.6%
普通債	32.8%
現預金	3.5%
合計	100.0%

当資料は、日興グローバルアセットマネジメント(U.K.)リミテッドが当ファンドの運用状況についてお伝えすること等を目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した資料であり、証券取引法、投資信託及び投資法人に関する法律に基づく開示資料ではありません。当資料の情報は信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、情報の正確性・完全性について日興グローバルアセットマネジメント(U.K.)リミテッドが保証するものではありません。当資料に掲載されている数値、図表等は、特に断りがない限り当資料作成日現在のものです。また、当資料に示す意見は、特に断りがない限り当資料作成日現在の弊社の見解を示すものです。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境等の変動を保証するものではありません。当資料中の運用実績等に関するグラフ、数値等はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。当ファンドは、主に外貨建の公社債を投資対象としています。組入債券は、金利の変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で価値が変動するため、ファンドの純資産価値も変動します。また、当ファンドの受益証券は、純資産価値が外貨建てで算出されるため、円貨でお受取りの際には為替相場の影響も受けます。したがって元金を割り込むことがあります。投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。最終的な当ファンドのご購入に際しての判断は、お客様ご自身でお願いいたします。投資信託は、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

豪ドルMMF

(データは2004年9月30日現在)

[純資産総額] 6.75億豪ドル(約537億円)
 [決算日] 毎年12月31日
 [設定日] 1996年2月29日
 [純資産価格] 100豪ドル

[7日間平均利回り(税込み)] 4.781%

[加重平均残存期間] 65日

[分配方法] 毎日実績分配

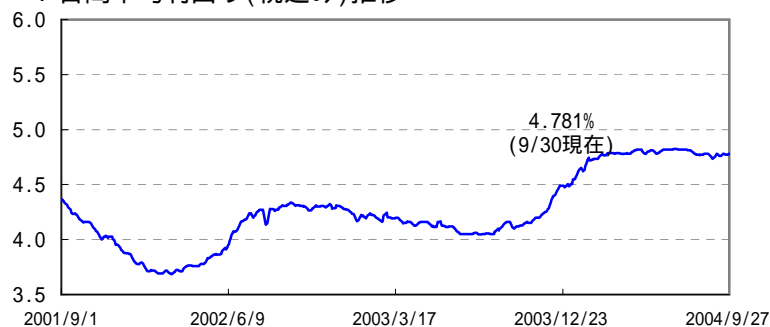
[当月再投資額(税込み)] 0.3919 豪ドル

1万口当たりの純資産価格、再投資額になります。

<運用担当者のコメント>

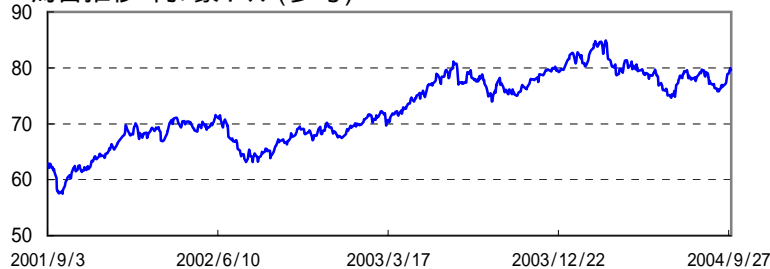
- ☑ 9月の豪州マネーマーケットカーブは、長短金利差の縮小を背景に、ややフラット化しました。9月末の3ヵ月レートは、前月末比、0.02%低下した5.37%となり、一方、12ヵ月レートは、やや大き目の0.05%の低下を見せ、5.54%となりました。前月末時点で0.2%であった長短金利差は、0.03%縮小した0.17%となっています。
- ☑ 9月は、原油価格動向が世界の金融市場の主要関心事となりました。ロシアでは、石油最大手企業のユーコス社の経営悪化問題が続く一方、全土を襲ったハリケーンの影響から、アメリカでは、供給に問題が生じたことから、原油価格は、1バレルあたり50ドルの台に乗せました。原油価格高騰は、実質的には、金融引き締めと同様であることから、世界経済の成長見通しについて、悪影響が及ぼされるであろうとの見方が強まりました。
- ☑ 原油価格高騰による、世界経済の軟化予想という背景に加え、国内では、住宅価格下落の傾向が改めて確認されたことから、中央銀行である豪州準備銀行(RBA)の金融引き締めも、終盤にきたという、市場筋の観測が拡大したことから、豪州金利回りはジリ安の動きとなりました。もっとも、豪州の景気指標の内容は、必ずしも弱気一色ではなく、8月分小売販売統計が、当初の0.3%拡大から、1.0%拡大に大幅上方修正される一方、雇用統計では、80,600人の雇用増加があり、失業率も5.8%に低下といった明るい結果の反面で、建設許可件数の2.4%低下、第2四半期の住宅着工が、第1四半期の9.2%縮小に続いて4.2%の縮小となるなど、強弱混在となっています。
- ☑ 豪州の金利先行きの方向性に関する不透明感が拡大するなか、当ファンドの利回りをより良いものとするを念頭に、我々は、変動利付債保有を増やしていくことを中心的な戦略としています。

<7日間平均利回り(税込み)推移>



*上記はあくまでも過去の実績であり、将来を保証するものではありません。

<為替推移 円/豪ドル(参考)>



東京三菱銀行発表の対顧客電信売買相場の仲値(TTM)です。

<格付分布>

現預金	0.8%
P-1	47.5%
P-2	0.0%
Aaa	17.1%
Aa	34.6%
A	0.0%
合計	100.0%

<残存年限別構成比>

現預金	0.8%
30日以内	36.2%
90日以内	46.6%
180日以内	6.9%
1年以内	9.5%
1年超	0.0%
合計	100.0%

*変動利付債は利払変更日までの日数で計算しています。

<組入れ上位10銘柄>

	銘柄	業種	クーポン(%)	償還日	格付	比率(%)
1	Bank Austria	銀行	10.875%	2004/11/17	Aa	5.2
2	Asian Development Bank	国際機関	4.0%	2004/10/12	Aaa	4.6
3	NAB	銀行	変動	2004/11/23	Aa	4.6
4	General Electric	製造	変動	2004/10/15	Aaa	4.6
5	Jackson National Life	金融	変動	2004/10/20	Aa	4.6
6	ANZ	銀行	変動	2004/10/15	Aa	3.0
7	Salomon SB Hldgs	金融	変動	2004/12/13	Aa	3.0
8	Barclays Australia	銀行	ゼロ	2004/10/7	P-1	3.0
9	UBS AG	銀行	ゼロ	2004/10/21	P-1	3.0
10	Network Rail	政府機関	ゼロ	2004/12/8	P-1	3.0

「ゼロ」は割引債で、「変動」は変動利付債です。変動利付債券は、「償還日」を次回利払日としています。

「格付分布」及び「上位10銘柄」の格付の記号は、ムーディーズ社の表記方法で記載しています。

従って、S & P社のA-1及びA-1+は、P-1、AAAはAaa、AAはAaにそれぞれ含まれています。

<資産構成比>

CD	0.0%
CP	47.6%
変動利付債	35.4%
普通債	16.3%
現預金	0.8%
合計	100.0%

当資料は、日興グローバルアセットマネジメント(U.K.)リミテッドが当ファンドの運用状況についてお伝えすること等を目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した資料であり、証券取引法、投資信託及び投資法人に関する法律に基づく開示資料ではありません。当資料の情報は信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、情報の正確性・完全性について日興グローバルアセットマネジメント(U.K.)リミテッドが保証するものではありません。当資料に掲載されている数値、図表等は、特に断りのない限り当資料作成日現在のものです。また、当資料に示す意見は、特に断りのない限り当資料作成日現在の弊社の見解を示すものです。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境等の変動を保証するものではありません。当資料中の運用実績等に関するグラフ、数値等はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。当ファンドは、主に外貨建の公社債を投資対象としています。組入債券は、金利の変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で価値が変動するため、ファンドの純資産価額も変動します。また、当ファンドの受益証券は、純資産価額が外貨建てで算出されるため、円貨でお受取りの際には為替相場の影響も受けます。したがって元金を割り込むことがあります。投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。最終的な当ファンドのご購入に際しては、お客様ご自身でお願いします。投資信託は、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。